

# 朝日大学精神看護学実習における倫理カンファレンスの実施

桐山啓一郎<sup>1)</sup>

## I. はじめに

2003年の日本看護協会による看護者の倫理綱領の発表、2008年の日本看護倫理学会発足など、看護職者の看護倫理への関心は高まりがみられている。それに伴い、看護基礎教育及び卒後教育で看護倫理が取り上げられることも多い。看護倫理教育は1946年発行の保健婦・助産婦・看護婦3者統合のカリキュラムに「看護史および看護倫理」の科目が設けられて以降、1947年の保健婦助産婦看護婦学校養成所指定規則発行から、1989年の同規則改正まで看護教育の基準として存在し続けていた（小林ら、2012）。現在は指定規則には明記されていないが、生命倫理や医療倫理への社会的なニーズを受け、看護基礎教育においても各教育機関において多様な形式で看護倫理に関連した教育が実施されている。

看護倫理教育を年代別にみると、1940年代後半から1990年代までは、礼儀や作法などの美德中心で行われていた（小林ら、2012）。同年代、看護師が倫理的であることは、整頓整理、時間厳守、親切、医師に従順であることなどを意味していた（フライら、2008）。1990年代から2000年代は、医療技術の発展や、多様な価値観の承認などを背景に、道德意識や礼儀・作法のみでは対応しきれない問題が生じた。結果、看護師も臨床現場において生命倫理などの高度な倫理的問題に直面することが多くなった。看護倫理教育は高度な倫理的問題に対応できるよう、倫理原則や倫理的葛藤、価値観の対立などが取り上げられるようになった。

精神看護学が対象とするフィールドは、精神科病院長期入院患者への支援や精神障害者の意思決定支援、身体拘束・隔離に代表される行動制限など倫理的問題を数多く孕んでいる。精神看護学実習で精神看護の現場に出向く学生はそれらの倫理的問題に接し、倫理的ジレンマを抱くことが少なくない。先行研究では、精神看護学実習中に学生が数多くの倫理的問題を体験しているという報告（信里ら、2012）がある。看護基礎教育において学生が卒後も応用可能な看護倫理教育を行うのであれば、学生が精神看護学実習の現場で直面する生々しい倫理的問題を取り上げ、考察することが有用であろう。

以上より、朝日大学保健医療学部看護学科精神看護学講座（以下、本講座とする）では、精神看護学実習中に全学生が実習現場で直面した問題を取り上げる倫理カンファレンスを実施している。倫理カンファレンスは、学生が実習中に直面した倫理的問題を羅列して述べるのではなく、倫理的問題をどのように捉え、どのように介入するかを取り上げる。学生は倫理カンファレンスを実習中に行い、臨床指導者や教員も交えて考察することで、臨床現場が抱える様々な問題を踏まえて考察することができる。また、学生は学生同士や臨床指導者、教員と倫理的問題について意見を交わし、対応方法を検討し、状況に応じた対応方法を実践することで、倫理的感受性を刺激されると思われる。本稿は本講座の精神看護学実習で実施している倫理カンファレンスについて紹介する。

## II. 精神看護学実習の構成と倫理カンファレンスの位置づけ

### 1. 精神看護学実習の構成

本講座の精神看護学実習は2単位10日間で行われている。実習日には3日間の学内実習を含み、臨地実習は7日間である。

---

1) 朝日大学保健医療学部看護学科（精神看護学）

## 2. 精神看護学実習におけるカンファレンス

7 日間の臨地実習は毎日カンファレンスを実施する。カンファレンスのテーマは、学生が実習グループ内で相談して決定する。テーマに多く取り上げられる内容としては、受持ち患者の対象理解、場面の再構成の振り返り、看護計画の評価などが挙げられる。カンファレンスの所要時間は 1 回あたり 30 分から 45 分程度である。カンファレンスには臨床指導者と教員が同席する。カンファレンスの進行は学生が主体的に行う。

倫理カンファレンスは、毎日行われるカンファレンスのテーマを学生が実習中に直面した倫理的問題に設定して実施する。倫理カンファレンスは臨地実習 2 日目以降に 1 回以上開催することを実習要項で指定している。倫理カンファレンスの進行は基本的に学生が行うが、学生は倫理的視点から事例を検討した経験がない場合が多いため、教員が適宜助言している。

## Ⅲ. 倫理カンファレンスの方法

### 1. テーマの選定

倫理カンファレンスのテーマは原則として学生がカンファレンス開催前までに実習グループ内（教員や臨床指導者を交えることもある）で相談して決定する。テーマは学生が実習中に遭遇した事例や場面の中から選定する。朝日大学では看護倫理学の講義が 4 年生後期に開講されるため精神看護学実習中の学生（3 年生）は受講していない。学生は看護倫理学の講義以外に倫理的な視点に基づくカンファレンスを開催することもないため、倫理カンファレンスのテーマを学生のみで選定することは難しい場合が多い。そのため、実習中に学生に同行し、学生の実習進捗状況や実習における体験を掌握している教員は、学生が倫理カンファレンスのテーマになりそうな場面に遭遇した際に、倫理カンファレンスで取り上げることが可能な場面であることを示唆している。また、教員は学生から倫理カンファレンスのテーマ選定について相談されることも多い。そのような場合教員は、学生が判断に迷った場面、特に 2 者若しくは 3 者択一で選択肢の全てに価値を有している場面を選定してはどうかと助言している。多くの場合、学生は教員からの示唆や助言に基づいて、実習グループのいずれかが判断に迷った場面を選定し、倫理カンファレンスのテーマを選定している。学生はテーマ選定後、臨床指導者と教員にテーマを伝える。倫理カンファレンスは午後、1 日の実習終了前に行われることが多いため、倫理カンファレンスのテーマは午前中に選定され、午前中若しくは午後の早い時間（カンファレンス開催 1 時間以上前）には教員と臨床指導者に通知されている。

### 2. テーマ及び事例紹介と学生の考えの表明

参加者は開催前にテーマを知らされ、検討する内容をある程度イメージして倫理カンファレンスに臨む。倫理カンファレンスは学生の司会で進行し、まず検討される事例や場面について、実際に遭遇した学生から紹介される。紹介される事例や場面は選定した学生が 2 者若しくは 3 者択一で迷っている場面が多い。その後、事例や場を提供した学生が、参加者から質問を受ける。参加者は質疑応答を通して検討される事例や場面についてのイメージを深める。検討される事例や場面についてある程度イメージできた時点で、倫理カンファレンスに参加している学生は自分がその場面に遭遇した場合、どのように判断し行動するかを考える。学生の考えがまとまった後、一人ひとりが考えを表明する。学生の考えは、2 者や 3 者の中で迷い、最終的に採択した 1 つについて述べられることが多いため、教員は学生が判断に迷った点や、判断する際に棄却した考えについても表明することを促すことが多い。

### 3. 生命倫理の 4 原則に基づく考えの整理

テーマとして取り上げた事例や場面について、参加している学生がどのように判断し行動しようと思うかを表明した後、教員から生命倫理の 4 原則（自立尊重原則、善行原則、無危害原則、正義原則）を簡単に説明する。倫理原則は紹介されている文献が多く、種類も数多いが、本講座の倫理カンファレンスでは生命

倫理の4原則を採用している。その理由は、生命倫理の4原則が日本看護協会ホームページ<sup>7)</sup>で紹介され、学生が入手やすく、倫理カンファレンスに参加する指導者にも馴染みがあると思われること、そして、学生が卒後臨床現場に就職した際も活用しやすいと思われることが挙げられる。学生は実習初日に行われる臨地実習の事前学習で必ず看護倫理について学習するよう教員から指導されているため、教員からの説明は復習になる。

教員は生命倫理の4原則について簡単に説明した後、学生に「自分の判断や行動はどの倫理原則に基づいているのか」を問いかける。また、教員は「自分が迷い最終的に棄却した考えもどの倫理原則に基づいているのか」についても学生に問いかける。学生はそれぞれの判断がどの倫理原則に基づくものであったか、また、判断する前に迷っていた考えはどの倫理原則に基づくものであるかを考え、参加者に向けて表明する。その際、多くの学生は倫理原則間でジレンマを生じていたことに気が付く。

#### 4. 最善のケアの検討

学生全員が自分の考えがどの倫理原則に基づいているか、どの倫理原則間でジレンマを生じていたかを表明した後、テーマとなった事例や場面でどのようなケアを実施しようと思うかを検討する。ケアの検討では、まず、学生それぞれの考えの基になっている複数の倫理原則を取り上げる。そして、実習グループのメンバーそれぞれの考えの基になっている倫理原則を踏まえて、テーマとなる事例や場面で、どのように判断し行動するかを学生間で検討する。学生間で考えが異なることも多いが、検討を重ねて、最終的に実習グループという看護チームとしての最善のケアを決定する。

#### 5. 感想の発表

実習グループとして提供するケアを決定したところで、倫理カンファレンスの検討は終了する。その後、学生は倫理原則に基づいた考えの整理やケアの選定を行った感想を述べる。学生の感想は様々であるが、テーマとして提供された事例や場面以外でも、自らが精神看護学実習中に遭遇している、若しくは遭遇した場面を倫理的に考察して感想を述べる学生もみられる。

#### 6. 臨床指導者・教員からの助言

学生の感想が終了した時点で、臨床指導者や教員から助言を行う。

臨床指導者は、これまでの臨床経験に基づき、テーマと実習グループが決定したケアについて助言を行うことが多い。時には臨床指導者自身が遭遇した事例や場面で抱いた倫理的ジレンマと判断、ジレンマを抱きながら実践した具体的なケアについて生々しく語られることもある。臨床指導者の語りには、実習中に学生が遭遇している倫理的問題と似ているものや、今まさに生じている問題が含まれていることもある。学生は看護師が臨床現場で倫理的問題をどのように捉え、対応しようとしているのかを学ぶことができる。また、学生は臨床指導者の助言や語りから倫理的問題に対峙した際に障壁となる可能性が高い、看護師個人の価値観、看護職と他職種の立ち位置の違い、法的問題なども知ることができる。

教員は、学生が思考したプロセスについて解説する。まずは、患者への礼儀や患者の尊厳を維持するための対応のみが看護倫理ではなく、看護師が臨床現場で遭遇し、迷い、判断していることの多くに倫理的問題を孕んでいることを説明する。そして、看護師が何らかの判断をする前の迷いは、倫理的ジレンマと呼ばれること、迷いの対象となる2者や3者はそれぞれ患者にとって有益となる価値があることを解説する。また、倫理的ジレンマを経て看護チームで検討されたケアは最善のケアといわれることを解説する。併せて、看護チーム内で生じる意見の相違は、それぞれが立ち位置とする倫理原則の違いから生じている可能性があることも説明する。

#### Ⅳ. 倫理カンファレンスで取り上げられたテーマ

実際に倫理カンファレンスで取り上げられたテーマを抜粋して紹介する。なお、紹介にあたり学生の許可を得、個人や実習施設が特定できないよう加工している。

1. 受持ち患者のバイタルサインを測定していたら、受持ちではない患者から測定してほしいと依頼された場面
2. 受持ち患者は精神症状が安定するための対処行動をとっているが、その行動による身体的負担が多く、身体症状の増悪を生じていた事例
3. 受持ち患者が学生とかかわりを持ちたいために、リハビリプログラムに参加しないと学生に告げた場面

#### Ⅴ. 倫理カンファレンスの看護計画への影響

倫理カンファレンスのテーマとして事例や場を提供した学生の中には、終了後に倫理カンファレンスでの検討に基づき看護計画を修正する者もみられる。また、テーマとして提供していなくても、倫理カンファレンス後に自らが倫理的問題に遭遇していたことに気が付き、倫理的ジレンマを明確にした上で、最善のケアとして看護計画を立案した学生もいる。

#### Ⅵ. おわりに

多くの看護基礎教育機関と同様、本講座も看護計画の記録様式（看護計画用紙）に計画の根拠を記載する部分を設けている。倫理カンファレンス終了後の学生が記載した看護計画用紙には、倫理的ジレンマが記載されていることがあり、記録用紙を通して、学生が臨床現場で倫理カンファレンスを実践する意義を感じる。また、倫理カンファレンスを終えた学生が倫理的視点を踏まえた看護計画を立案する様からは、看護基礎教育段階で倫理カンファレンスを開催することの有用性が伺え、臨床看護師として就労した際に応用できるのではないかと考える。

本講座の精神看護学実習は、実習終了後に最終レポートを課している。レポートは、学生が実習中に印象に残ったことを焦点化してテーマを付け、テーマに添って実習の体験を交えながら実習を総括する。学生が選定するテーマは多様であるが、その中には倫理原則に基づく看護計画の実践やその振り返りなど、倫理カンファレンスに関連したものが取り上げられることがある。10日間にわたる実習で1回のみ開催される倫理カンファレンスが、実習の総括である最終レポートのテーマになるほどの印象があったという事実からは、多少なりとも学生の倫理的感受性を刺激することができたのではないと思われる。

本稿は、本講座精神看護学実習における倫理カンファレンスについて紹介し、その評価はしていない。今後の課題は、倫理カンファレンスについて多面的かつ客観的に評価を行うことである。

#### 文 献

小林道太郎, 竹村淳子, 真継和子, 山内栄子, 太田名美 (2012). 看護倫理に関する歴史的概観. 大阪医科大学看護研究雑誌, 2, 60-67.

日本看護協会 (2017-1-6). 看護者の倫理綱領.

<http://www.nurse.or.jp/nursing/practice/rinri/rinri.html>

日本看護倫理学会 (2017-1-6). 日本看護倫理学会設立趣意書.

[http://jnea.net/journal\\_item/journal/0101/img/001.pdf](http://jnea.net/journal_item/journal/0101/img/001.pdf)

日本看護協会 (2017-1-6). 倫理原則.



<http://www.nurse.or.jp/rinri/basis/rule/index.html>

サラ T. フライ, メガン-ジェーン・ジョンストン (2008) / 片田範子, 山本あい子訳 (2010). 看護実践の倫理 (第3版). 66, 東京: 日本看護協会出版会.

信里ユリエ, 井原美由紀, 片岡睦子 (2012). 精神看護学実習における看護学生の倫理的体験. 中国四国地区国立病院機構・国立療養所看護研究学会誌, 7, 184-187.